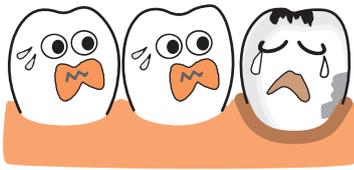


歯周病の話



8020を目指している現在、むし歯だけが歯の病気ではありません。それよりもはるかに恐ろしいのが“**歯周病**”
歯が抜けるだけにとどまらず、その猛威は全身をも侵すことをご存知でしょうか？

歯周病の原因は歯石とプラーク！



プラークは細菌を大量に含んでいる軟らかいかたまりです。プラークは歯ブラシで容易に取ることが出来ます。



時間が経つとプラークが石灰化して硬い歯石に変化してきます。硬くなった歯石は歯ブラシで容易に取ることが出来なくなります。

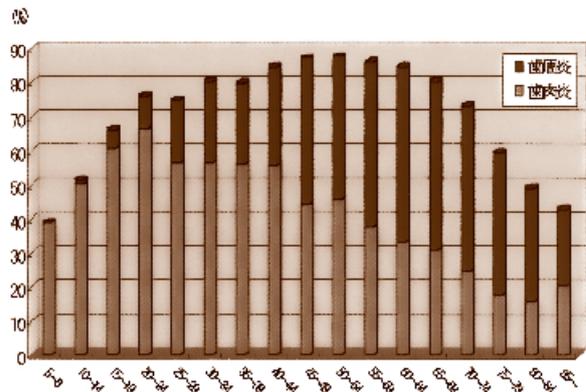


歯石の表面はザラザラしていて歯肉を刺激し、さらにプラークがたまり易くなります。このプラーク中の大量の細菌が出す毒素によって歯肉や歯槽骨が侵され、ますます歯周病が悪化していきます。



よく歯磨きをしていても歯石が付いてくることが多いので、定期的に歯科医院で取ってもらうことが必要です。

歯周病のある人の割合(年代別)



平成17年歯科疾患実態調査(厚生労働省)

歯周病は歯肉炎と歯周炎(いわゆる歯槽膿漏)に分けられ、そのピークは50歳から54歳の頃です。しかし、20歳から24歳の若者でも66%以上が、歯周病のかかりはじめである歯肉炎になっています。年齢と共にしだいに歯周病は増加していく傾向にあります。70歳代以上では歯周病が減ったように見えますが、これは対象となる歯を失っていくからです。

歯周病は歳をとるごとに自然に発生するものではありません。その原因となるのは細菌ですから、毎日のお手入れでお口の中を清潔に保つことが大切となります。

